

ワークショップ1

「炎症性腸疾患（IBD）領域におけるトランスレーショナル研究」

司会 松本 主之（岩手医科大学消化器内科）

久松 理一（杏林大学消化器内科学）

近年、トランスレーショナルリサーチ（TR）は難治性疾患の診断・治療に大きく貢献してきた。それは、TRにより基礎医学から得られたシーズを臨床医学に効率よく迅速に展開することが可能となったためと考えられる。炎症性腸疾患においても、新規診断・治療法が続々と開発され、臨床応用されている。本ワークショップでは本邦クローン病、潰瘍性大腸炎におけるTRの現状を報告頂き、将来的展望や全世界的展開について議論してみたい。進行中の研究を含めた刺激的な発表を期待する。